

1. ICT委員会 会議報告

愛知大学情報メディアセンターの事業および運営は、豊橋ICT委員会及び名古屋ICT委員会を中心に行っている。ICT企画会議のもと、豊橋ICT委員会および名古屋ICT委員会を設置し、豊橋および名古屋(車道メディアゾーン含む)情報メディアセンターの事業を推進する。

2010年10月から2011年9月に開催された各ICT委員会の議事は次の通りである。

豊橋ICT委員会

2010年度

◇第4回 10月28日

1. 次期システム校舎別検討項目について
(豊橋校舎)
2. 2011年度実習室利用アンケートについて
3. 情報教育活用コンテストについて
4. その他

報告事項

1. 2010年度予算執行(実習室ソフトウェア)について
2. その他

◇第5回 12月2日

1. 2011年度予算について
2. 内規の改正について

2011年度

◇第1回 5月19日

1. 委員について
2. その他

報告事項

1. 実習室時間割について
2. Moodleの利用状況について
3. 名古屋情報メディアセンター飲食について
4. その他

◇第2回 7月6日

1. 2012年度以降のPC環境について
2. 2012年度以降の豊橋情報メディアセンターの体制について
3. 飲食ルールについて
4. 2011年度夏季休暇期間開館スケジュールについて
5. 2011年度教育用ソフトウェア利用申請について
6. その他

報告事項

1. 新名古屋校舎(ささしま)ネットワークについて
2. その他

名古屋ICT委員会

2010年度

◇第4回 10月28日

1. 実習室アンケートについて
2. その他

◇第5回 12月2日

1. 2011年度予算申請について
2. 内規の改正について
3. その他

報告事項

1. 貸出ノートパソコンの盗難について
2. その他

◇第6回 1月27日

1. 実習室アンケートについて
2. 飲食について
3. 受講ガイド講習会について
4. 2011年度コンピュータ利用説明会について
5. その他

報告事項

1. ホスト接続継続確認について
2. 盗難について
3. その他

2011年度

◇第1回 5月12日

議題

1. 委員について

2. その他

報告事項

1. 実習室時間割について
2. 実習室ソフトウェアについて
3. Moodleの利用状況について
4. 飲食について
5. 停電によるシステムの停止について
6. その他

◇第2回 7月15日

1. 2012年度以降のPC環境について
2. 2012年度以降のネットワークについて
3. 2012年度以降の名古屋情報メディアセンターの体制について
4. 寄贈品の取り扱いについて
5. その他

報告事項

1. 2012年度実習室アンケートについて
2. 開室スケジュールの変更について
3. 貸出ノートパソコンの液晶破損について
4. その他

合同ICT委員会

2010年度

◇第1回 10月28日

1. 次期システムについて
2. LMS運営特別委員会について
3. その他

2. 情報メディアセンター主催行事 (2010年10月～2011年9月)

◆豊橋校舎

開 講 日	講 習 会 名	教 室	参加人数
10月18日 (月)	ワード(応用)講習会	423教室	5人
11月12日 (金)	パワーポイント講習会	421教室	16人
11月12日 (金)	パワーポイント講習会	413教室	3人
12月1日 (水)	ワード(応用)講習会	421教室	7人
12月13日 (月)	パワーポイント講習会	423教室	10人
5月17日 (火)	パワーポイント講習会	423教室	5人
5月25日 (水)	電子メール講習会	413教室	2人
6月21日 (火)	パワーポイント講習会	423教室	4人
6月22日 (水)	電子メール講習会	413教室	1人

◆名古屋校舎

開 講 日	講 習 会 名	教 室	参加人数
10月8日(金)	Word(応用編)講習会	第2実習室	1人
10月12日(火)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第3実習室	1人
10月15日(金)	Word(入門編)講習会	第1実習室	1人
10月20日(水)	e-Learning講座受講ガイド講習会	第2実習室	1人
10月20日(水)	PowerPoint講習会	第1実習室	1人
10月25日(月)	Excel(入門編)講習会	第3実習室	2人
11月15日(月)	Webページ作成講習会	第2実習室	1人
12月16日(木)	PowerPoint講習会	第2実習室	1人
4月18日(月)	Excel(入門編)講習会	第3実習室	2人
4月27日(水)	Word(入門編)講習会	第1実習室	1人
4月28日(木)	PowerPoint講習会	第2実習室	3人
5月18日(水)	Excel(入門編)講習会	第1実習室	2人
5月20日(金)	Word(応用編)講習会	第2実習室	3人
5月23日(月)	PowerPoint講習会	第2実習室	4人
5月24日(火)	Webページ作成講習会	第2実習室	2人
5月30日(月)	Excel(応用編)講習会	第2実習室	4人
6月6日(月)	Word(入門編)講習会	第2実習室	1人
6月8日(水)	PowerPoint講習会	第1実習室	1人
6月17日(金)	Excel(入門編)講習会	第2実習室	1人
7月4日(月)	Excel(入門編)講習会	第2実習室	1人
7月11日(月)	Excel(応用編)講習会	第2実習室	1人
9月27日(火)	Word(応用編)講習会	第2実習室	1人
9月28日(水)	Excel(応用編)講習会	第1実習室	1人
9月30日(金)	PowerPoint講習会	E202教室	1人

◆車道校舎：主催行事なし

2010年度LMS運営特別委員会活動報告

1. LMS運営特別委員会について

本委員会はLMSの運用内規、運用指針等について提案を行い、LMSの安定的な運用を行うこと並びに、LMSシステムの利用促進並びに教材の電子化促進を行うことを任務として発足した。

(A) 委員構成

委員の構成は以下の通り。

- ① 委員長 伊藤 博文 教授（名古屋情報メディアセンター所長）
- ② 委員 蔣 湧 教授（豊橋情報メディアセンター所長）
龍 昌治 教授（豊橋教学委員会推薦）
齋藤 毅 准教授（名古屋教学委員会推薦）
岩田 員典 准教授（名古屋ICT委員会推薦）
三浦 文博 課長（情報システム課）
- ③ 事務幹事 石原 有希子 係長（情報システム課）
秦 俊一郎 係長（名古屋情報メディアセンター）
濱口 庸介 係長（豊橋情報メディアセンター）

なお、Moodleの運営にあたっては、以下の協力を得た。

豊橋校舎担当：運営堂 森野 誠之（運用保守業務委託先）

名古屋校舎担当：株式会社コネクティボ 内田 広幸（運用保守業務委託先）

(B) LMS運営特別委員会

2010年度における委員会活動は以下の通り。

◆第1回：2010年6月8日（木） 15:30～17:00

- 議題：1. 春学期Moodle講習会開催について
2. Moodle年間スケジュールについて
3. 運営指針の見直しについて
4. 2009年度事業報告について
5. デジタイズについて
6. その他

協議・報告事項

- 1. 2010年度予算について
- 2. 利用状況報告（4月、5月）について
- 3. UPO-NETの導入について
- 4. 私情協「電子著作物相互利用事業」の参加について
- 5. その他

◆Moodle 懇談会：2010年12月16日 13:20～14:00

司会：伊藤LMS 運営特別委員会委員長

資料に基づき、司会者より事例発表が行われ、発表に対して意見・質疑等が出された。出された意見・質疑等は以下の通り。

事例1.「Moodleで回収したレポートが採点しづらい」：課題出力サービスの利用

- ・ 印刷ポイントとはどのようなサービスか。
 - 情報メディアセンターで印刷できるポイント(教員：1,000ポイント)である。
 - 本事例は200枚位で済むと思われる。
- ・ 印刷ポイントが足らなくなる場合もあるのでは？
- ・ 添削がPC上でできると一番良いが、現在のMoodleではやり辛い。
- ・ 法科大学院では、レポートをWordファイルで提出させ、教員がファイルに直接コメントを入れた後、院生に返信する場合もある。
- ・ Moodleに、ペーパーレスにできる機能はないか？
- ・ Wordファイル提出となると、都度ファイルを開く必要が出てくるので、実際の運用としては難しいかもしれない。
- ・ 学生が提出したファイルを、教員が添削してMoodleへアップし、それを学生が閲覧すればよいのでは？
- ・ フォーラムのアップロード機能を使えば運用は可能であると思われる。
- ・ Moodle上でファイルの添削ができないか？
 - 「高度なファイルのアップロード」を利用すれば可能である。

事例2.「学生とディスカッションをしたい」「語学のリスニング教材を配布したい」：
フォーラム・ファイルアップロードの活用

- ・ この事例の受講生は何人位なのか？
 - 30人程度でグループにわけた講義をおこなっている。(10グループ)
- ・ 資料の色分けは具体的にどうやっているか？(8ページ目)
 - フォントカラーを一つ一つ変えて行っている。
- ・ 学生の印刷ポイントに上限はあるか？
 - 学生の上限は800ポイントである。追加で印刷する場合は購入が必要となる。

事例3.「ゼミや卒論で使ってみたい」：ラベル・ファイルのアップロードの活用

- ・ 文字コードの件があるのでiPhoneはともかく携帯で利用させるのは難しい。
- ・ 合宿などのスケジュール調整や、授業展開等を教室での講義を行わなくとも、Moodle上でできるようにならないか？
- ・ ある程度の部分をMoodleで進めておき、その後教室で具体的な議論を進めることは可能かもしれない。
- ・ MoodleなどLMSを利用しながらも、教室での授業を前提として授業を行っている。
- ・ Moodleだけで完結する授業を現在は考えていない。
- ・ ゼミのディスカッションなどはMoodleで完結させることは難しいと思われる。
- ・ フォーラムで学生とやり取りしている事例はあるか？
- ・ ゼミでMoodleを利用しているが、フォーラムはあまり利用していない。レポートのアップロード、資料データを保存しておくなどデータのやり取り程度しか利用していない。締め切りをMoodleに書いているので、課題を忘れずに提出してもらえる。

事例4.「同じ質問を減らしたい」「講義の予習、テストの復習の告知をしたい」：フォーラムの活用

- ・ 試験の回答や解説をMoodleへアップするのは参考になる。現在は学生が試験を受けて、結果だけを知る形になっているが、Moodleへ回答や解説をアップすれば、学生の参考になるのではないか。学生に教育的ケアをしていくという意味では良いと思う。
- ・ Moodleに講評を載せている教員もいるが、講義期間が終了すると学生はMoodleを見ないので、学生にMoodleを見させる仕組みが必要かもしれない。
- ・ 大学院だけでなく、学部でも運用を考えていったらよいのでは。
- ・ 中間試験のようなものがあれば、学部でも有効になるのでは。

事例5.「小テストの結果を分析できないか」：小テストの活用

- ・ 小テストは他の先生もお使いだと思うが成績分析の機能をお使いか？
→ どの程度のことが実現可能か不明であったので、成績分析の機能はMoodle上では使っていない。一度Moodle上で試してみる。

- ・ 分析の機能は機能的には便利だが、設定が難しいため躊躇している教員が多いと思うが、試行錯誤して案内していきたい。
 - ・ 教員同士で電子化した資料や問題の共有を図りたい。
 - ・ 情報科目の問題を共有することはやるべきと思うが、経営学部で簿記の問題を大量に作っている教員がいると思うが、作成した問題を公開していただくと参考になると思う。
- 簿記の3クラスに対してMoodleを展開して運用している。
- ・ 問題を作るプロジェクトを発足しないか？
 - ・ どなたかリテラシー系の問題を作成されていないか？
- まだ作成していないが、単答の問題が欲しい。
- ノルマを設定し、各自問題を持ち寄ってはどうか？
- ・ 関西大学のe-Learningの取り組みが進んでおり、参加している教員のフォーラムが活発である。(その中で、下部組織も作られている。)
- 本学もフォーラムで意見交換できるようになればよい。
- Moodle上で意見交換ができるのを知らない利用者が多くいる。

事例6.「課題を印刷させて、出席カード代わりにしたい」：ファイルのアップロードの活用

- ・ 課題を提出したデータや出席のデータは、どこかに集約したいのか？
- おそらく手集計ではないかと思われる。
- ・ 出席に関しては、他人が友達の課題を持ってくる場合、授業は出席しても課題をやってこない場合、などを気をつければ良いのではないか。
 - ・ 皆さんは出席をとっているか。
- 語学の授業は30名程度の規模であるため、出席をとっていると思う。
- 語学の授業は教学課の出欠席の規定に則っている場合が多いと思う。
- 大教室では難しいと思うが、語学の授業は少人数のため出席が不足すると試験も受けさせない教員もいる。
- 実際に一つの授業でMoodleで出席を取っている。PCを利用する場合、ゼミは必ずPCにログインするので運用が可能だが、大教室の場合Moodleで出席は取れないので、あきらめて出席代わりに授業の感想を掲示板に書かせている。

しかし欠席した学生も書き込みをしている。出席を厳格に取るのは困難だと思う。

- ・ 名城大学はICカードを入口にかざせば出席を取れる。年度末に大学より出席の状況をリスト化してもらえるが、他人のICカードをかざす学生もいるので馳ごっこである。実際、ICカードの読取り機のある入口には待ち行列ができるため実用的ではなく立命館などでは今では使用していない。
- ・ 大講義系を担当することもあるが、80人を超えると、授業を聞きたくもない学生がいよいよ出席のために座っているのも邪魔である。語学の授業の場合は、授業を1回欠席すると学生本人は内容がわからなくなる。わからない箇所が増えると、教員が授業をやりにくいいため出席を重視すると思われる。
- ・ 出席カードの代替にする場合、白紙で提出されても良いのなら良いと思う。

7. その他

- ・ Moodleの携帯のモジュールは何とか動くようになったが、機能としてはフィードバック、小テストだけである。携帯モジュールは入れても上手く動かない。
- ・ Moodleにログインだけさせておけば、後から集計が可能なので出席を取ることも可能である。
- ・ 出席していないと回答できない課題を出すこともよい。しかし実際に出席代わりに事前に紙で課題を提出させる運用をしているが、課題をやらない学生は他人の課題をコピーして提出してくるなど逃げ道を見つけるので逃げ道をなくすのは限界があると思う。課題提出、コメントのやり取りなどをメインとし、結果として出席を確認できると考えればよいのではないか。
- ・ 資料を印刷してこないと授業に出席させないという教員もいるので、課題提出としては提出なし、出席だけを認めるという運用も考えられる。
- ・ HPに資料をアップロードしていたら、学生からMoodleにアップロードして欲しいと言われた教員もいるようだ。
- ・ 学生としては、Moodleを使うなら教員は全員Moodleを使って欲しいというのが本音であろう。
- ・ Moodleに教員自身のHPへのリンクを張っている場合もある。

- ・ 共通ログイン先としてMoodleを使っていけばよいのではないかな。
- ・ Moodleがポータルになってくるといふことか。
- ・ 同科目を複数担当している場合、Moodleはコースのコピーができるので管理が楽になると思われる。
- ・ UnipaとMoodleが連携できれば良い。
- ・ Unipaでシラバスを作成するため、同じようなことをMoodleで再度行う必要がある。シラバス作成段階からMoodleが組み込まれていれば、授業計画やコースの作成が楽である。
- ・ Moodleへ提出したものを成績に直接反映するかどうかは教員で意見が分かれるかもしれない。
- ・ Unipaとの連携として、Unipaのお知らせをMoodleに掲載することは出来ないか？
- ・ 大学のメールに日ごろから連絡などの通知を送らないと、いざというときに大学のメールを使わない。

以上

2. Moodle講習会

Moodleの利用促進のため、Moodle利用講習会を以下の通り実施した。

①第4回Moodle講習会

第4回 教員向け Moodle 講習会&情報交換会開催のお知らせ!

① 日 時 第4回 豊橋校舎、名古屋校舎、車道校舎ともに
7月15日(木)、11:00～12:30
名古屋校舎、名古屋校舎、車道校舎ともに
7月15日(木)、13:20～14:50

② 場 所 豊橋校舎：本館5階 第3会議室
名古屋校舎：中央教室棟 第4研修室
車道校舎：K804教室

③ 講習内容 (90分)
1. 初めてお使いの方、使い方のよくわからない方向けに
→ 無料の導入、講師の紹介と質疑などの説明
2. Moodleに慣れた方
→ ネットワーク、インストールの紹介
→ すでにMoodleで使っていない追加機能の紹介
3. 質疑応答

④ 情報交換会 (TV会議で90分)
会場：LMS講習特別委員会 伊藤博文(名古屋大学)
■ 各校舎をTV会議で結んでMoodleを使った授業での悩み、課題、などを意見交換
■ Moodleを利用した問題バンク、eラーニングについてディスカッション

⑤ 講 師 豊橋校舎：渡辺 政利
名古屋校舎：株式会社コネクティブ 内田 広幸
車道校舎：TV会議となります。

⑥ その他 ■ 参加費は無料です。参加費を要するものではありません。参加費を要するものではありません。
※当日は教員向けマニュアルを配布いたします。

講習会に関するお問い合わせ先

お問い合わせ先 E-mail
名古屋校舎 豊橋校舎 LMS講習特別委員会 事務局 (TEL) 052-731-1111
名古屋校舎 名古屋校舎 LMS講習特別委員会 E-mail : moodlestaff@net.nagoya-u.ac.jp
名古屋校舎 名古屋校舎 LMS講習特別委員会 E-mail : moodlestaff@net.nagoya-u.ac.jp

校舎	開催日時	場所	参加者
豊橋	7月15日 2限	本館5階第3会議室	5
	7月15日 3限	本館5階第3会議室	0
名古屋	7月15日 2限	中央教室棟第4研修室	6
	7月15日 3限	中央教室棟第4研修室	1
車道	7月15日 2限	K804教室	4
	7月15日 3限	K804教室	0

表1. 第4回Moodle講習会 参加状況

②第5回Moodle講習会

第5回 教員向け Moodle 講習会開催のお知らせ!

1. 日時

初學者向け講習会も個別相談
豊橋校舎/名古屋校舎
11月18日(月) 11:00~12:30
車道校舎
11月17日(日) 11:00~12:30

新機能のご紹介も個別相談
豊橋校舎/名古屋校舎
11月18日(月) 13:20~14:50
車道校舎
11月17日(日) 13:20~14:50

2. 場所

豊橋校舎 4号館 413教室 / 名古屋校舎 第2実習室 / 車道校舎 高層棟 K704教室

3. 初心者向け講習会内容 (実施形式で60分、個別相談30分)

操作方法説明

- コースリストと登録設定
- 教材配布(ファイルアップロード)
- レポート課題(単一ファイル、オンラインテキスト)
- フォーラム
- 模範の紹介のみ
- 小テスト(ランダムテスト等含む)
- 自動出欠/クイズメール

サポート体制

マニュアル設置場所の紹介

- 電話サポート
- メディアセンターサポート
- 学生サポート(豊橋のみ)
- 電子化サポート

質疑応答

4. 新機能のご紹介 (実施形式で60分、個別相談30分) 10分程度の変更される場合があります

効率的なコース編集の方法

- 10分程度の変更される場合があります
- コース内のトップページのリンクを表示する

小テストでの出欠確認

授業の進捗管理などに

- メール配信のテスト
- 豊橋 Moodle

5. 講師

豊橋校舎 車道校舎 名古屋校舎 森野 裕子 / 名古屋校舎 豊橋校舎 森野 裕子 / 名古屋校舎 豊橋校舎 森野 裕子

6. その他

※事前登録の必要はありません。直接教室までお越しください。
※当日は教員向けマニュアルを配布いたします。

講習会に関するお問い合わせ先

豊橋校舎 豊橋校舎メディアセンター 窓口 (内線: 1532)
名古屋校舎 名古屋校舎メディアセンター 窓口 (内線: 2320)
車道校舎 豊橋校舎メディアセンター 窓口 (内線: 3103)

お問い合わせ先 E-Mail
E-mail: moodstaff@ml.aichi-u.ac.jp

校舎	開催日時	場所	参加者
豊橋	11月18日2限	4号館 413教室	2
	11月18日3限	4号館 413教室	1
名古屋	11月18日2限	第2実習室	2
	11月18日3限	第2実習室	3
車道	11月17日2限	高層棟 K704教室	0
	11月17日3限	高層棟 K704教室	2

表2. 第5回Moodle講習会 参加状況

③第6回Moodle講習会

第6回教員向け Moodle 講習会のお知らせ!

**10年度コースから
11年度コースへの移行
携帯版 Moodle の説明など**

車道校舎 (高層棟 K802 教室)
3月7日(月) 11:00~12:30

豊橋校舎 (4号館 413 教室)
名古屋校舎 (第2実習室)
3月10日(水) 9:20~10:50

**コース移行の説明、
携帯版 Moodle の説明など**
(実施形式で60分、個別相談30分)

- 10年度コースから11年度コースへのコースデータの移行方法説明
- マニュアルに沿って説明します。
- その他 Moodle の活用方法の説明
- 評価管理/その他
- 質疑応答

講師

豊橋校舎 車道校舎 名古屋校舎 森野 裕子
名古屋校舎 株式会社コネクティビティ 内田 広幸

※以下の説明書も配布いたします。
※当日は教員向けマニュアルを配布いたします。

お問い合わせ先

豊橋校舎 豊橋校舎メディアセンター 窓口 (内線: 1532)
名古屋校舎 名古屋校舎メディアセンター 窓口 (内線: 2320)
車道校舎 豊橋校舎メディアセンター 窓口 (内線: 3103)

お問い合わせ先 E-Mail
E-mail: moodstaff@ml.aichi-u.ac.jp

**11年度から初めて
利用される方向け講習会**

車道校舎 (高層棟 K802 教室)
3月7日(月) 13:20~14:50

豊橋校舎 (4号館 413 教室)
名古屋校舎 (第2実習室)
3月10日(水) 11:00~12:30

初心者向け講習会内容
(実施形式で60分、個別相談30分)

- 操作方法説明
- コースリストと登録設定
- 教材配布(ファイルアップロード)
- レポート課題(単一ファイル、オンラインテキスト)
- フォーラム
- 模範の紹介のみ
- 小テスト(アンケート等含む)
- 自動出欠
- クイズメール
- サポート体制
- マニュアル設置場所の紹介
- 電話サポート、メディアセンターサポート
- 学生サポート(豊橋のみ)
- 電子化サポート
- 質疑応答

校舎	開催日時	場所	参加者
豊橋	3月10日 2限	4号館 413教室	1
	3月10日 3限	4号館 413教室	4
名古屋	3月10日 2限	第2実習室	3
	3月10日 3限	第2実習室	0
車道	3月7日 2限	高層棟 K802教室	2
	3月7日 3限	高層棟 K802教室	0

表3. 第6回Moodle講習会 参加状況

3. Moodle利用状況

(A) コース利用状況

運用開始2年目の2010年度は、291コース、延べ159名の教員の利用があった。
これは前年度と比較して、約2倍の伸びとなった。

表4. 2010・2009年度コース登録数及び利用教員数(利用人数は、延べ人数)

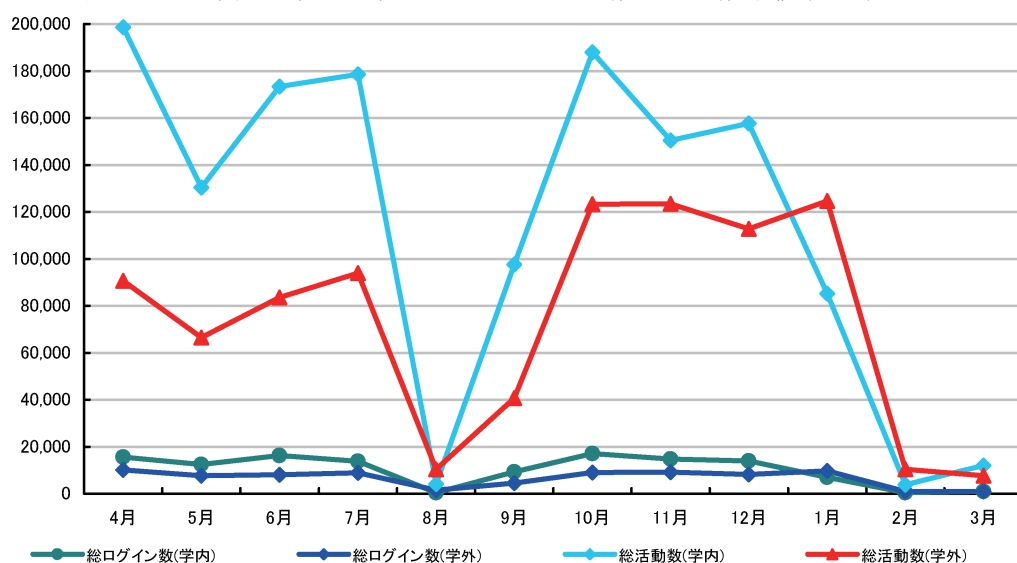
カテゴリ	10年春学期		10年秋学期		合計		前年比率	
	コース数	教員数	コース数	教員数	コース数	教員数	コース数	教員数
共通教育科目＜豊橋＞	27	17	40	15	67	32	180%	180%
共通教育科目＜名古屋＞	12	9	24	13	36	22	300%	280%
法	9	8	4	4	13	12	220%	200%
現中	6	4	8	4	14	8	470%	270%
経営	27	10	28	11	55	21	210%	180%
経済	20	12	16	11	36	23	140%	180%
文	3	3	5	4	8	7	270%	230%
国コミ	5	1	10	3	15	4	500%	200%
短大	8	6	16	7	24	13	340%	330%
法科	6	4	6	4	12	8	400%	270%
会計	0	0	7	5	7	5	700%	500%
大学院	1	1	0	0	1	1	50%	50%
資格課程	2	2	1	1	3	3	60%	50%
合計	126	77	165	82	291	159	220%	200%

カテゴリ	9年春学期		9年秋学期		合計	
	コース数	教員数	コース数	教員数	コース数	教員数
共通教育科目＜豊橋＞	11	7	26	11	37	18
共通教育科目＜名古屋＞	5	3	7	5	12	8
法	2	2	4	4	6	6
現中	2	2	1	1	3	3
経営	9	5	17	7	26	12
経済	9	5	16	8	25	13
文	1	1	2	2	3	3
国コミ	2	1	1	1	3	2
短大	3	2	4	2	7	4
法科	1	1	2	2	3	3
会計	1	1	0	0	1	1
大学院	1	1	1	1	2	2
資格課程	2	2	3	4	5	6
合計	49	33	84	48	133	81

(B) サイトアクセス

1) 月別アクセス数

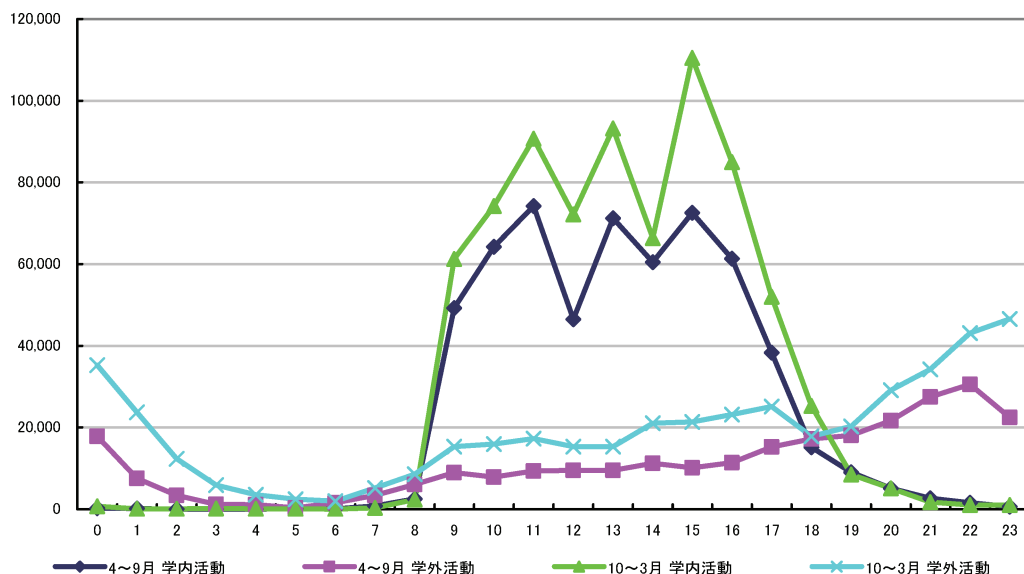
図1. 2010年度 学内・学外からのログイン数・活動数推移(月別)



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2009年度	総ログイン数(学内)	7,309	5,115	5,001	7,683	435	4,168	11,125	10,713	10,428	8,591	524	707
	総ログイン数(学外)	4,129	3,125	2,525	3,210	643	2,055	5,610	6,230	6,232	8,924	2,221	1,408
	総活動数(学内)	89,308	42,680	45,431	85,849	4,273	44,403	107,382	106,805	96,416	82,732	6,981	5,880
	総活動数(学外)	56,226	24,697	18,571	25,597	5,832	19,593	47,511	53,443	49,598	72,619	18,009	9,924
	ログインあたり活動数(学内)	12.22	8.34	9.08	11.17	9.82	10.65	9.65	9.97	9.25	9.63	13.32	8.32
	ログインあたり活動数(学外)	13.62	7.90	7.35	7.97	9.07	9.53	8.47	8.58	7.96	8.14	8.11	7.05
2010年度	総ログイン数(学内)	15,589	12,407	16,274	13,758	455	9,254	17,106	14,745	13,861	7,017	407	923
	総ログイン数(学外)	10,111	7,693	8,078	8,920	1,551	4,573	8,975	9,201	8,159	9,625	997	944
	総活動数(学内)	198,620	130,358	173,414	178,588	4,098	97,543	187,948	150,412	157,634	85,242	3,758	12,055
	総活動数(学外)	90,619	66,497	83,592	93,971	10,357	40,686	123,332	123,373	112,729	124,579	10,315	7,608
	ログインあたり活動数(学内)	12.74	10.51	10.66	12.98	9.01	10.54	10.99	10.20	11.37	12.15	9.23	13.06
	ログインあたり活動数(学外)	8.96	8.64	10.35	10.53	6.68	8.90	13.74	13.41	13.82	12.94	10.35	8.06
前年 同月比	総ログイン数(学内)	213%	242%	325%	179%	104%	222%	153%	137%	132%	81%	77%	130%
	総ログイン数(学外)	244%	246%	319%	277%	241%	222%	160%	147%	130%	107%	44%	67%
	総活動数(学内)	222%	305%	381%	208%	95%	219%	175%	140%	163%	103%	53%	205%
	総活動数(学外)	161%	269%	450%	367%	177%	207%	259%	230%	227%	171%	57%	76%

2) 時間帯学期別アクセス数

図2. 2010年度Moodleアクセス統計(時間帯学期別アクセス数)



2009 年度	時間		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	4～9月	学内活動	126	79	17	0	8	0	57	437	1,395	27,199	34,413	41,683
		学外活動	8,744	4,335	1,906	732	568	168	782	1,930	2,999	4,240	4,947	5,001
	10～3月	学内活動	350	63	43	93	38	43	17	176	1,323	35,139	42,190	50,380
		学外活動	20,302	12,583	6,184	3,292	2,072	1,327	1,109	2,861	4,921	8,019	8,858	9,189
	時間		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	4～9月	学内活動	24,630	37,001	33,607	39,245	32,925	21,289	8,112	4,445	2,756	1,342	772	348
		学外活動	5,003	4,807	5,591	5,276	5,712	7,340	9,576	10,056	12,059	15,260	17,478	15,076
	10～3月	学内活動	34,251	45,345	36,856	61,951	47,195	28,201	13,527	4,456	2,411	1,066	629	506
		学外活動	8,093	8,510	11,127	10,749	12,442	13,224	12,075	11,250	16,069	18,311	23,842	25,879
2010 年度	時間		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	4～9月	学内活動	227	142	39	35	14	41	107	810	2,511	49,253	64,219	74,213
		学外活動	17,821	7,521	3,354	1,208	1,122	312	1,555	3,400	6,021	8,921	7,850	9,352
	10～3月	学内活動	721	95	65	147	78	94	33	306	2,381	61,250	74,213	90,684
		学外活動	35,244	23,751	12,354	5,926	3,530	2,399	1,996	5,150	8,541	15,321	15,944	17,245
	時間		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	4～9月	学内活動	46,521	71,234	60,493	72,531	61,354	38,320	15,123	9,021	5,124	2,654	1,542	625
		学外活動	9,523	9,521	11,231	10,115	11,354	15,234	17,237	18,101	21,706	27,468	30,541	22,451
	10～3月	学内活動	72,153	93,254	66,341	110,512	84,951	51,962	25,312	8,452	5,103	1,742	1,021	1,021
		学外活動	15,321	15,318	21,029	21,357	23,135	25,132	17,854	20,250	29,114	34,215	43,125	46,582
前年 同月比	時間		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	4～9月	学内活動	180%	180%	229%	-	175%	-	188%	185%	180%	181%	187%	178%
		学外活動	204%	173%	176%	165%	198%	186%	199%	176%	201%	210%	159%	187%
	10～3月	学内活動	206%	151%	151%	158%	205%	219%	194%	174%	180%	174%	176%	180%
		学外活動	174%	189%	200%	180%	170%	181%	180%	180%	174%	191%	180%	188%
	時間		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	4～9月	学内活動	189%	193%	180%	185%	186%	180%	186%	203%	186%	198%	200%	180%
		学外活動	190%	198%	201%	192%	199%	208%	180%	180%	180%	180%	175%	149%
	10～3月	学内活動	211%	206%	180%	178%	180%	184%	187%	190%	212%	163%	162%	202%
		学外活動	189%	180%	189%	199%	186%	190%	148%	180%	181%	187%	181%	180%

3. ICT委員会構成員

豊橋ICT委員（2011年10月1日現在）

役 職 名	所 属	氏 名
豊橋情報メディアセンター所長	地域政策学部	沓掛 俊夫
委 員	文 学 部	中尾 充良
	経 済 学 部	阿部 武彦
	国際コミュニケーション学部	梅垣 敦紀
	地域政策学部	湯川 治敏
	短期大学部	安 智史

名古屋ICT委員（2011年10月1日現在）

役 職 名	所 属	氏 名
名古屋情報メディアセンター所長	法科大学院	伊藤 博文
委 員	法 学 部	山本 未来
	経 営 学 部	岩田 員典
	現代中国学部	土橋 喜
	法科大学院	春日 修
	会計大学院	栗濱竜一郎

情報メディアセンター事務室

情報システム課	課長・事務情報システム係長	三浦 文博
	教育研究情報システム係長	濱口 庸介
	課 員	金子善一郎
		小川 晃史
		大岡 奏子
豊橋情報メディアセンター事務室	係 長	石原有希子
名古屋情報メディアセンター事務室	係 長	秦 俊一郎

4. 愛知大学 情報メディアセンター沿革・歴代所長

年度	組織	所長(任期)		システム沿革
		豊橋	名古屋	
1978				IBM製ホストコンピュータ4331 導入
1979				
1980	電子計算機センター	津村 善郎		
1981	電子計算機センター委員会	(1980. 4. 1～1982. 4. 30)		
1982		福田 治郎		
1983		(1982. 5. 1～1983. 3. 31)		
1984		福田 治郎		
1985		(1983. 4. 1～1985. 3. 31)		
1986		高橋 正		
1987		(1985. 4. 1～1987. 3. 31)		
1988		高橋 正		第1期教育研究情報システム稼動 1988. 4-1991. 3
1989	情報処理センター	藤田 佳久 (1989. 4. 1 ～1989. 5. 31)	坂東 昌子 (1989. 4. 1 ～1990. 9. 30)	日立製ホストコンピュータ (HITAC M-640/20) 導入
1990	豊橋情報処理センター委員会 名古屋情報処理センター委員会	藤田 佳久	浅野 俊夫	
1991		(1990. 10. 1～1992. 9. 30)		第2期教育研究情報システム稼動 1991. 4-1994. 3
1992		藤田 佳久	有澤 健治	
1993		(1992. 10. 1-1994. 9. 30)		
1994		樋口 義治	長谷部 勝也	第3期教育研究情報システム稼動 1994. 10-1997. 3(全校舎学内LAN敷設)
1995		(1994. 10. 1-1996. 9. 30)		
1996		樋口 義治	長谷部 勝也	
1997		(1996. 10. 1-1998. 9. 30)		第4期教育研究情報システム稼動 1997. 4-2000. 9 (延長6ヶ月)
1998		宮沢 哲男	有澤 健治	
1999		(1998. 10. 1-2000. 3. 31)		
2000		小津 秀晴	有澤 健治	
		(2000. 4. 1-2000. 9. 30)		
		小津 秀晴	田川 光照	10月 第5期教育研究情報システム稼動
2001		(2000. 10. 1-2002. 9. 30)		
2002		龍 昌治	坂東 昌子	
2003		(2002. 10. 1-2004. 9. 30)		
2004	情報メディアセンター	龍 昌治	坂東 昌子	4月 第6期教育研究情報システム稼動
2005	情報メディアセンター委員会 豊橋情報メディアセンター委員会 名古屋情報メディアセンター委員会	(2004. 10. 1-2006. 9. 30)		
2006	情報メディアセンター運営会議 豊橋情報メディアセンター運営会議 名古屋情報メディアセンター運営会議	龍 昌治	中尾 浩	
2007		(2006. 10. 1-2008. 9. 30)		
2008	ICT企画会議 豊橋ICT委員会 名古屋ICT委員会	蔣 湧	伊藤 博文	4月 第7期教育研究情報システム稼動
2009		(2008. 10. 1-2010. 9. 30)		
2010		杓掛 俊夫	伊藤 博文	
2011		(2010. 10. 1-2012. 9. 30)		

編集後記

おかげさまで「情報メディアセンター紀要 COM」の第37号も無事に発刊を迎えることとなった。本号では論文4編に加え、情報教育フロンティア1編、さらに伊藤所長の発案によって、今年度限りとなる三好校舎の思い出特集を組むこととなった。特集では11名にも及ぶ方々からの寄稿、および写真提供も賜り、様々な立場からの思い出を綴っていただいた。来年度の新名古屋(ささしま)校舎開校後には「こんにちは、よろしく、ささしま校舎」なる特集が組まれるのではないかと密かに期待している。

話は変わるが、2011年10月5日にはアップル・コンピュータの共同設立者で現在のアップル社のCEOであったスティーブ・ジョブズ氏が亡くなった。この場をお借りしてご冥福をお祈りしたい。いろいろな評価はあるにせよ、本当の意味でのパーソナルなコンピュータを世に広めるきっかけを作り、様々なデジタル・ガジェットを世に送り出すことで普段の生活の中に情報機器を浸透させた立役者の一人であることには間違いない。私自身は自他共に認めるWindows嫌いのMacフリークであり、最初のMacintoshはRAMが1MBのPlusだった。その後NeXTにもお世話になり、本学に赴任した95年にはNeXT Cubeと共に豊橋にやってきた(妻は少し遅れてやって来た)。今現在はNeXTSTEPの子孫であるMacOSXやiOSに囲まれた生活をすると共に、2001年には5GBの初代iPodから買い始め、iPhoneも発表から約1年も我慢してようやく手に入れ、iPad、iPad2もすぐさま購入し、アップル製品が身の回りにあふれている。コンピュータを単なる計算機から生活に密着した情報機器にまで垣根を下げ、さらに音楽業界とコンピュータを結びつけたジョブズ氏が次のターゲットとして考えていたのが教育分野だったとその伝記が伝えている。あと10年、氏が生き延びたとしたらどのようなイノベーションを起こしてくれることだろうと悔やまれてならない。とかく腰の重い教育分野の中にあっても情報関連分野のアンテナは常に感度を良くし、情報関連科目はもちろんのこと、むしろそれ以外の科目についての省力化や効率化が情報関連機器、技術、サービスを使うことで図られることを望むと共に、そのことがささしま校舎および車道、豊橋でもメディアセンターを中心に実現されるよう大いに期待している。

H. Y.

愛知大学情報メディアセンター紀要<COM> 原稿募集要項

情報メディアセンター紀要<COM>は、下記の要領で原稿を募集しています。詳細につきましては、情報メディアセンターまでお問い合わせください。

1. 著者の資格

- (1) 本学教職員および本学教職員との共著者
- (2) 本学非常勤教員
- (3) 本学学生(教員の推薦があるものに限る)
- (4) 編集委員会が認めたもの

2. 投稿原稿の内容

投稿原稿は未発表のもので、下記に關係する内容とする。

- (1) 情報教育に關する理論と実践
- (2) 情報科学や情報工学に關する理論とその応用
- (3) 情報システムに關する調査、分析、理論
- (4) コンピュータを活用した研究、教育、および業務等の実践報告
- (5) 本学のコンピュータ利用に關して必要と思われる情報メディアセンターの報告
- (6) その他(編集委員会が認めたもの)

3. 投稿原稿の種類

投稿された原稿は編集委員会によって、下記のように区分して掲載する。

- (1) 論文
- (2) 研究ノート
- (3) ソフトウェアレビュー
- (4) 情報教育フロンティア
- (5) 書評(新刊・古典)
- (6) 学会動向

※ 原稿の体裁と見本については別紙を参照のこと。

4. 原稿の提出要領

- (1) 原稿は、プリントアウトしたものと電子ファイルの双方を提出すること。
- (2) 完成された投稿原稿のみを受理する。
- (3) 提出する電子ファイル名は、投稿原稿のタイトルとすること。
- (4) 図版等がある場合は、その電子ファイルもあわせて提出すること。
図版等のファイル形式はjpegとする。
- (5) 提出ファイルは、Microsoft Wordまたはテキスト形式とする。
- (6) 裏表紙(目次用)として、タイトル、著者名の英文を添えること。
- (7) 著者は連絡先(ゲラ等の送付先)の住所、電話番号を申し込み先の担当者まで連絡すること。

5. 投稿原稿の体裁

投稿原稿は「愛知大学情報メディアセンター紀要＜COM＞ 執筆要項」および別紙「体裁見本」に従って作成すること。

体裁見本のファイルは情報メディアセンターで配布するので問い合わせること。

なお、投稿原稿に指定以外の体裁の部分があるときは、COM編集委員会にて別紙「体裁見本」のフォーマットに統一することがある。

6. 校正

(1) 校正は著者校正を2回とする。

(2) 校正段階での内容の変更は、総ページ数が増えない範囲で行なうこと。

7. 著作権

(1) 提出された論文の著作権は、原則として愛知大学情報メディアセンターに属し、無断で複製あるいは転載することを禁じる。

(2) 論文作成に際して用いたコンピュータソフトや映像ソフト等の著作権に関する問題は、著者の責任において処理済みであること。他人の著作権の侵害、名誉毀損、その他の問題が生じないように十分に配慮すること。

(3) 万一、執筆内容が第三者の著作権を侵害するなどの指摘がなされ、第三者に損害を与えた場合、著者がその責を負う。

(4) 著作人格権は著者に属する。

(5) 本誌への掲載が確定した原稿は、愛知大学情報メディアセンターホームページにて公開するものとする。

(6) 投稿された原稿は、国立情報学研究所等へ登録される。

8. その他

(1) 別刷りは論文及び研究ノートに対し各30部作成し、著者代表者に無料で進呈する。30部以上を希望する場合には有料とする。

(2) 著者には紀要を2部進呈する。ただし希望があれば10部を限度として進呈する。

以上

申し込み・問い合わせ：愛知大学情報メディアセンター

担当：情報システム課 濱口・金澤

E-mail：johosystem@ml.aichi-u.ac.jp

TEL：052-937-8120(内線3101)

FAX：052-937-8121(内線3109)

(別紙)

愛知大学情報メディアセンター紀要<COM> 執筆要項

1. 執筆言語

和文もしくは英文とする。

2. 原稿

(1) 論文……和文の場合は5000文字程度、英文の場合は3500 words程度。

ただし、図版等の数量に応じて調節すること。

(2) 研究ノート……和文の場合は3000文字程度、英文の場合は3500 words程度。

ただし、図版等の数量に応じて調節すること。

(3) ソフトウェアレビュー……和文の場合は3000文字程度、英文の場合は3500 words程度。ただし、図版等の数量に応じて調節すること。

(4) 情報教育フロンティア……和文の場合は3000文字程度、英文の場合は3500 words程度。ただし、図版等の数量に応じて調節すること。

(5) 書評(新刊・古典)……和文の場合は900文字程度、英文の場合は600 words程度。ただし、図版等を挿入することはできない。

(6) 学会動向……COMのフォーマットに従う。

3. 著者と所属

著者名と所属を記載し、著者名のあとにカッコ()に入れて所属を記載する。

4. セクションタイトルとセクション記号

本文中の章、節、項、目などの立て方は、原則として以下のとおりとする。

(例)

1. 章タイトル

1.1 節タイトル

1.1.1 項タイトル

(1) 目タイトル

5. 図・表・写真

図・表・写真は、本文中の適当な箇所に挿入すること。または、挿入箇所を明確にすること。

ただし、COM編集委員会にて挿入位置、サイズを変更する場合があるが、変更不可の場合は明記のこと。

(1) 表について

表の上部に「表○：表名」(○は表の一連番号)を記載すること。

(2) 図・写真について

図・写真の下部に「図○：図名」(○は図の一連番号)または「写真○：写真名」(○は写真の一連番号)を記載すること。

6. 要旨とキーワード

論文と研究ノートには要旨とキーワードをつける。要旨は400字以内(200words以内)で執筆し、本文と同じ言語でもよいし、異なった言語でもよい。キーワードは国立情報学研究所のcinii等への正確な登録のために、5～7語程度のキーワードをつける。

7. 謝辞

謝辞を記載する場合は、本文の最後に謝辞と小見出しを使い記載する。

8. 文献

文献の記載は、本文の後に1行空けてから「文献」という見出しを立て、その次の行から、文献を一括して記載すること。本文中の該当箇所には、番号と右丸括弧を使い¹⁾のように上付きで記すこと。

参考文献は原則として、雑誌の場合には、著者、標題、雑誌名、巻、号、ページ、発行年を、単行本の場合には、著者、書名、ページ数、発行所、発行年を、この順に記す。記し方は次の例を参照にされたい(情報処理学会論文誌原稿執筆案内による)。

(例)

- 1) 山田太郎：偏微分方程式の数値解法，情報処理，Vol.1，No.1，pp.6-10(1960)．
- 2) Feldman, J. and Gries, D.: Translator Writing System, Comm. ACM, Vol.11, No.2, pp.77-113(1968)．
- 3) 大山一夫：電子計算機，p.300，情報出版，東京(1991)．
- 4) Wilkes, M. V: Time Sharing Computer Systems, p.200, McDonald, New York(1990)．

以上

愛知大学情報メディアセンター紀要 COM〔コム〕

Vol. 22 No.1 第37号

2012年2月17日 印刷

2012年2月17日 発行

編集 愛知大学情報メディアセンター

「COM」編集委員会

発行 愛知大学情報メディアセンター

(豊 橋)豊橋市町畑町1-1

〒441-8522 TEL(0532)47-4124(直通)

FAX(0532)47-4125

(名古屋)みよし市黒笹町清水370

〒470-0296 TEL(0561)36-1117(直通)

FAX(0561)36-2781

(車 道)名古屋市東区筒井2丁目10-31

〒461-8641 TEL(052)937-8120(情報システム課直通)

FAX(052)937-8121

印刷 新日本法規出版株式会社

情報メディアセンター教育用パソコン 機種および設置台数

○豊橋校舎

設 置 場 所		機 種	台数
情報メディアセンター (4号館)	420教室	MintPC ridottos HITACHI FLORA 330W	70
	421教室	HP Compaq dc7700 SF	52
	423教室	HP Compaq dc7700 SF	58
	424教室	HP Compaq 6710b	50
	413教室	HP Compaq dc7700 SF	25
5号館	514教室	HP Compaq 6710b	24
	523教室	HP Compaq dc7700 SF	50
図書館棟1F	メディアゾーン	HP Compaq dc7700 SF	40
豊橋 計			369

○名古屋校舎

設 置 場 所		機 種	台数
情報メディアセンター	第1実習室	HP Compaq dc7700 SF	60
	第2実習室	HP Compaq 6710b	30
	第3実習室	HP Compaq 6710b	20
	オープンフロア	HP Compaq dc7700 SF	25
中央教室棟	マルチメディア教室	HP Compaq 6710b	60
東教室棟	E201教室	HP Compaq dc7700 SF	60
	E202教室	HP Compaq dc7700 SF	40
図書館棟2F	メディアゾーン	HP Compaq dc7700 SF	73
名古屋 計			368

○車道校舎

設 置 場 所		機 種	台数
メディアゾーン		HP Compaq dc5700SF	50
K802		HP Compaq 6720s	35
K804		HP Compaq 6720s	50
車道 計			135